

令和6年度第2回島根県幼児教育推進協議会  
議事次第

1 日時 令和6年7月17日(水) 10:00~12:00

2 会場 サンラポーむらくも 2階 興雲の間

3 議題

(1) 幼児教育振興プログラム改訂の骨子(案)について

- ・ 骨子(案)の内容
- ・ 改訂版の名称

(2) 今後のスケジュール(追加)について

- ・ ヒアリング

4 配付資料

資料1 幼児教育振興プログラム改訂の骨子(案)

資料2 今後のスケジュール(令和6年度振興プログラム改訂スケジュール)

資料3 ヒアリングメンバー一覧

## 令和6年度第2回島根県幼児教育推進協議会 出席者名簿

### 1. 委員

氏名	所属・職名	出欠
小山 優子	公立大学法人島根県立大学人間文化学部 教授	出
峯谷 玲子	島根県国公立幼稚園・こども園長会 会長 (松江市立津田幼稚園 園長)	出
西谷 正文	島根県私立幼稚園連合会 理事長 (学校法人光幼稚園認定こども園光幼保園 園長)	出
川上 雅文	荒茅保育園 園長	出
相山 慈	認定こども園あさりこども園 園長	出
塩満 恭子	認定こども園神田保育園 園長	出
今岡 篤子	島根県幼児教育研究会会長 (出雲市立塩冶幼稚園 園長)	出
安達 利幸	島根県小学校長会会長 (松江市立宍道小学校 校長)	出
長岡 和志	松江市保育所(園)保護者会連合会 会長	出
持田 万規子	松江市こども子育て部こども政策課 保育指導官	出
重田 幸	大田市健康福祉部子ども保育課 副主幹	出
八束 政義	島根県教育庁特別支援教育課 課長	出

### 2. 事務局

氏名	所属・職名
石橋 裕子	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 室長
野島 博行	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 企画幹
宮崎 次光	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 指導主事
岩成 佳子	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 指導主事
永島 千津子	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 幼児教育コーディネーター
小笹 菜太	島根県教育庁教育指導課幼児教育推進室 主事
梶谷 美鈴	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 課長補佐
渡邊 紀子	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主任
山田 大翔	島根県健康福祉部子ども・子育て支援課 主事

島根県幼児教育振興プログラム改訂版 骨子(案)  
 しまねの架け橋期の教育振興プログラム (仮称)  
 ～円滑な幼小連携・接続が支えるしまねの教育～

【第2回幼児教育推進協議会】

※主な用語について

- 「幼児教育施設」；幼稚園、保育所、認定こども園、特別支援学校幼稚部、認可外保育施設
  - 「認定こども園」；幼保連携型認定こども園、幼稚園型認定こども園、保育所型認定こども園、地方裁量型認定こども園
  - 「小学校」；小学校及び義務教育学校前期課程、特別支援学校小学部
  - 「幼小連携・接続」；幼児教育施設の教育・保育と、小学校教育との連携・接続
  - 「保育者」；幼稚園教諭、保育士、保育教諭及びそれぞれの施設で教育・保育に従事する者
- ※「架け橋期」とは、幼児教育施設における遊びを通じた学びや成長を基礎として、小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期（幼児教育施設年長児～小学校1年生）

## I 改訂の趣旨

### 1 改訂のねらい

- ・ 現行プログラム策定時より、多様な価値観、予測不可能な社会の情勢が進み、今後さらに複雑化する社会の中で、子どもの「生きる力」を育むため、その土台となる、幼児教育の質の向上と幼小連携・接続のあり方の見直しは重要課題である。
- ・ この課題解決のためには、①小学校以降の主体的・対話的で深い学びの土台となる幼児教育の質が、施設種関係なく確保されること、②幼小連携・接続の必要性について幼児教育及び小学校以降の教育関係者だけでなく、子どもに関わる全ての大人に周知を図ることなどが必要であり、現行プログラムを改訂することとした。

### 2 国の取組

- (1) 「第4期教育振興基本計画（R3.1）、中教審答申（R3.1）」より
  - 幼児教育の理解促進、改善
  - 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進
  - 子ども・関係者のウェルビーイングの向上
- (2) 「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」審議のまとめ（R5.2）より
  - 国の幼保小の架け橋プログラムの方向性  
カリキュラム開発、「10の姿」の理解、開かれたカリキュラム等の促進  
データに基づくカリキュラム・教育方法改善促進
  - 幼保小の架け橋プログラムの手引き（R3.7）より  
架け橋期のカリキュラム開発のイメージ  
開発会議の役割、園や学校でのカリキュラムの具体化、自治体の支援

### 3 県の取組

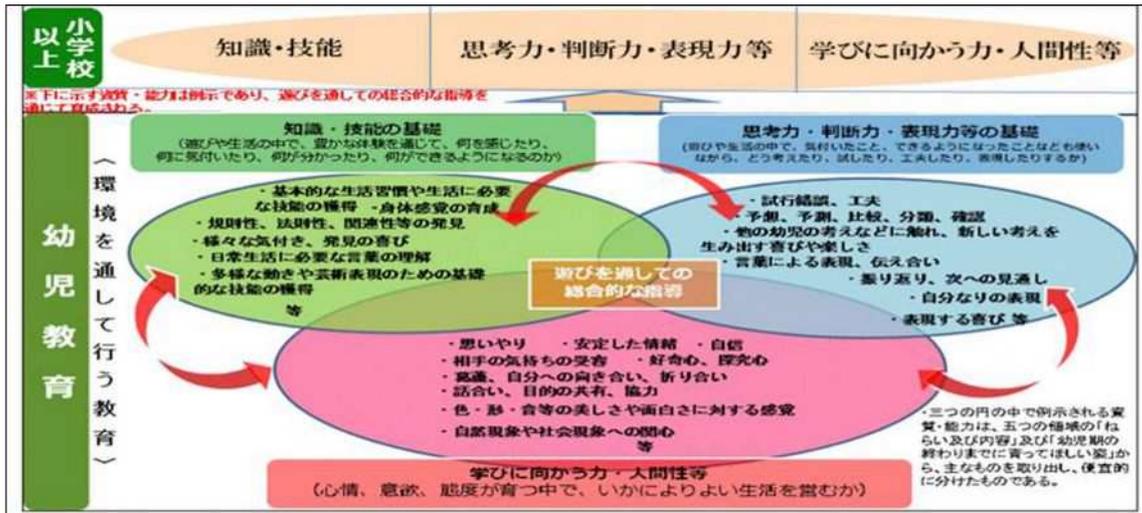
- (1) 改訂版島根教育ビジョン～幼児教育の立ち位置（幼児教育の重要性を土台にした取組）～
- (2) 幼小連携・接続の推進のための取組 ～しまねの架け橋期の教育～
  - 架け橋期の島根の子どもの状況、保育の状況
  - 島根の架け橋教育推進の具体
    - ・ 幼児教育推進体制の構築（体制整備のフェーズ）
    - ・ 保育の質の向上 ～「遊びを通しての総合的指導」の実践～
    - ・ 幼小連携・接続の推進（幼小接続の意義、カリキュラム開発の必要性）

## Ⅱ 円滑な幼小連携・接続の推進のために大切にしたいこと（3つの柱）

### 1 人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性

#### (1) 資質・能力の芽生え【遊びを通しての総合的な指導】

- i) 幼児教育において育む資質・能力の基礎
  - ・ 環境への主体的な関わりを通して・・・遊びの循環
- ii) 小学校以降の子どもの発達を見通した、「育みたい資質・能力」
  - ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりに、幼小における相互理解が必要 ※共通項としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明示



H28.12.21「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(中教審答申)」より

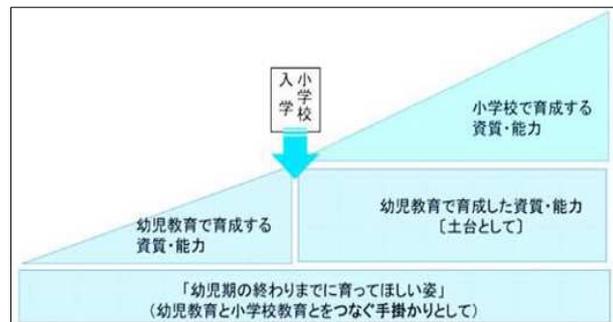
#### (2) 学びに向かう力（非認知能力）

- ◎ 「環境を通して行う教育」である幼児教育において育つ「非認知能力」の中でも、特に「学びに向かう力」は、小学校以降の主体的な学びの土台としての位置づけ

「環境を通して行う教育」  
 = 「保育者と共に生活する中で、乳幼児が自ら興味や関心をもって環境に関わり、**試行錯誤**を経て、**環境へのふさわしい関わり方**を身に付けていくことを意図した教育」

#### (3) 幼児教育を土台にした「つなげる教育」＝「小学校からのゼロスタートにしない」

- ・ 幼児教育施設における「遊びこむ」姿（満足感、達成感、協同的に活動する喜び 等）  
 ⇒小学校以降で育成する資質・能力の基礎
- ・ 幼児期に培った「学びに向かう力」を、小中学校で育成する資質・能力の基盤と捉え、環境が変化する小学校においても、その学びに向かう力が発揮できるよう、教育環境を工夫することによって、主体的、対話的で深い学びへの発展につなげる。



## 2 架け橋期の教育の充実

### (1) 架け橋期の教育の充実によって期待すること

- i) 架け橋期の子どもの学びを支える支援の変化
  - ・ 実践を幼小協働で振り返る機会、幼小相互でねらいを明確にした交流活動等  
⇒架け橋期の子どもへの支援のあり方の見直し  
⇒子どもの学びをより支える支援として変化
  - ・ 環境を通して行う教育を土台とした連携・接続  
⇒ 幼児期の主体的な学びの姿の生活科への活用  
(子どもの思いから発展する、問いがつながるカリキュラム構成の工夫 等)
- ii) 子どもの学びの変容
  - ・ 子ども自身が見通しをもつ学習
  - ・ 子ども自身の学びの振り返りへの活用 (ドキュメンテーション等)
- iii) 市町村の支援体制の充実

### (2) 推進における取組の具体化

- i) 幼児教育施設・小学校第1学年における交流活動 (ねらいの設定、共有)  
⇒接続を見通した交流活動
- ii) 架け橋期のカリキュラムの協働作成
  - ・ めざす子ども像等の共有のもと、一体となって作成
  - ・ 具体化(子どもの姿、発達に応じた遊びや学びのプロセス、教育課程や指導計画等)
- iii) 架け橋期のカリキュラムの実践と振り返り
  - ・ 幼小の教育内容、指導方法の相互理解⇒ 指導を見直す機会
  - ・ 地域あるいは小学校区における実践の協働的な振り返り  
(幼小の継続的な合同会議等の位置づけ)  
⇒幼小連携・接続に向けた幼児教育施設間の横の連携強化へ

## 3 教育現場での実践のための視点

### (1) 幼児教育施設がめざす保育の共通の視点

- i) 子どもを支える保育者等との信頼関係
- ii) 環境を通して行う教育によって育つ子どもの姿
- iii) 「学びの芽生え」としての幼児期の遊び

### (2) 架け橋期の教育の充実のための視点

- i) 子どもに関わるすべての大人による架け橋期の教育の重要性への理解
- ii) 主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことにつながる教育活動の工夫
- iii) 架け橋期とそれにつながる時期を見通した教育の充実

## Ⅲ 取組の方向性

### 1 めざす子ども像

いきいきと 周りの「ひと・もの・こと」と関わりながら 遊びこむ子ども

～ 主体的な学びに向かい、深い学びへとつながる「遊びこむ」姿 ～

#### (1) 「いきいきと」

- ・ 生まれながらにしてもつ、「自ら育つ力」、「周囲の環境に能動的に関わろうとする力」を発揮する姿
- ・ 頭も心も体も動かして、主体的に活動する姿
- ・ 安心して自分の思いを表そうとする姿

- (2) 「周りの『ひと・もの・こと』と関わりながら」
  - ・ 子どもの興味・関心をくすぐる環境との出会い
  - ・ 「ひと・もの・こと」への関わりによる自発性、協調性、創造性等の効果的育成
- (3) 「遊びこむ子ども」
  - ・ 小学校以降の教育への接続を見通した、「主体的・対話的で深い学び」につながる遊びの姿
  - ・ 遊びに集中、没入し、遊びの循環を通して試行錯誤を繰り返し、新たな発想、他者との関わりから深い学びへと深化する姿

## 2 めざす子ども像実現のための視点

- (1) 各発達段階にふさわしい生活の場（子どもに対する情緒的な関わり）
  - ・ 守られているという安心感から生じる安定した情緒
  - ・ 「自立」につながる必要なときの適切な援助（子どもの心に寄り添うこと）
  - ・ 興味や関心に基づいた基本的な体験
  - ・ 他者（友だち）との十分な関わり
- (2) 発達の段階を踏まえた教育・保育
  - ・ 保育における一人一人の発達の進度に即した環境の提供
  - ・ 「幼児教育における発達の目安」
  - ・ 一人一人の発達等に即した保育の小学校へのつながり（小学校における架け橋期の発達段階を考慮した指導・支援のあり方）
- (3) 一人一人の特性に応じた指導（特別支援教育の視点）・・・【特別支援教育課】
  - ・ 子どもの背景をどう受け止めるか
  - ・ 特性に応じた指導とは

## 3 子どもを中心につなげるしまねの幼小連携・接続（手引き）

- (1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとした連携・接続（幼小のつながり 具体）
  - ・ 小学校入学期の子供の状況
  - ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
  - ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を通した幼小の対話
  - ・ 市町村の開発会議の役割
- (2) カリキュラム開発
  - ・ カリキュラムのイメージ
  - ・ カリキュラム開発の4つのフェーズ（各フェーズの取組の要点）
  - ・ カリキュラムマネジメント
  - ・ 指導計画作成上の留意点
  - ・ カリキュラム開発のための研修例

## IV 幼児教育施設における取組の内容

### 1 発達の目安

#### (1) 発達の目安 一覧表 (Cf. 沖縄県)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳以降
育ちの特徴							
※生活していく力							
人とかかわる力							
思考力の芽生え							

学力・社会力・人間力

- ・ 小学校教育へのつながり・・・育成する資質・能力とのつながり  
小学校における環境を通じた教育
- ・ 発達の特徴は巻末に別表で載せる方向  
心の発達との関わり (Cf. 「0.1.2 歳児愛着関係をはぐくむ保育」)

**(2) めざす子ども像実現で見られる資質・能力**

※ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の具体

例) 「言葉による伝え合い」・・・人間関係に関わる重要な視点  
子どもの具体的な姿(画像)を提示しながら例示

幼児教育施設での取組	小学校生活に生かしたい態度等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉で表現したくなるような、心が大きく動く体験を計画的に積み重ねる。</li> <li>・日々の生活の中で、子どもが伝えようとすることを丁寧に聞き、その思いを温かく受けとめることに常に配慮する。</li> <li>・日々子どもが目にする掲示物や、活動を通して、様々な言葉(表現)に気づくことができるよう工夫する。</li> <li>・保育者自身が、豊かな言葉の表現をし、日々子どもとのやり取りの中で、豊かな表現を伝えるモデルとなる。</li> <li>・絵本や物語に親しむ中で、子どもが感じた思いを、身体や言葉で伝え合う楽しさを感じることができるよう機会を計画する。 また、想像する楽しさ、言葉の意味の面白さを共有する場を読み聞かせ等の後に計画する。</li> <li>・活動の振り返りの場を大切に、子どもたち一人一人の思いを伝え合うことを通して心を通わせる機会を計画する。(成功体験としての積み重ね)</li> <li>・様々な感情を言葉で表すことを意識した指導(特にマイナス感情を保育者が共有することを通して言語化し、子ども自身が少しずつ言葉で表すことができるように配慮する)</li> <li>・言葉の伝え合いを保育者以外にも広がるよう、子ども同士の関係づくりの基礎として、保育者は、関わりが生まれる活動(遊び)となるよう、ねらいをもって工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境等への困り感、不安等助けを言葉にして、教師等へ伝えることができる。</li> <li>・思いや自分がやってみたいと思ったことだけでなく、怒りや戸惑い、不安等のマイナス感情を言葉で伝えることができる。</li> <li>・本に親しみ、読書を好む。</li> <li>・読み聞かせや読書で感じた思いを身体や言葉等で表現できる。</li> <li>・自分が伝えたいだけでなく、幼児期の伝え合いの経験のもと、興味・関心をもって友達の考えを聞こうとする。</li> <li>・友達との意見のやり取りを楽しむ。</li> <li>・友達と、対話をもとに課題解決しようとする。</li> </ul>

**2 めざす子ども像実現のための「幼児教育の取組」の具体**

(1) 子ども理解に立った保育 (Cf. 「園児が心を寄せる環境の構成」)

- ・ 具体的な事実から、何が育ちつつあるのか解釈
- ・ 保育者の願いの前に、その子どもの思いや願い、心もちなどを受け止める。
- ・ 子ども一人一人の心の動きを探る。
- ・ 子ども一人一人の発達の過程を長期的に見る。 など

(2) 環境を通して行う教育・・・子どもの主体性と保育者の意図性のバランス

- ・ 子どもの発達にとって必要な経験が得られるような環境構成

- ・ 子どもが興味・関心をもって関わるができる環境構成
- ・ 子ども一人一人の発達を捉えた、環境構成や適切な援助
- ・ 子どもの環境との出会いや活動の展開等の予想
- ・ 体験が豊かになるような環境構成

(3) 学びの循環 (現行:P. 11. 12)

- ・ 主体的・対話的で深い学び



遊びのプロセス	見られる姿
遊びの創出	遊具、素材、用具や場の選択・準備 友達との誘い合い
遊びへの没頭	楽しさや面白さの追求、 試行錯誤、工夫、協力、 失敗や葛藤、問題の解決、 折り合い、挑戦
遊びの振り返り	振り返り 明日への見通し

(4) 小学校接続を見通した視点

- ・ 遊びを通した主体的な学びの実践  
(小学校以降の生活や学習の基盤としての幼児期の学び)
- ・ 幼児期の発達に応じた子どもの力の育成について発信する力
- ・ 小学校の学びを理解する (生活科を中心として) × 規律訓練的
- ・ 協働による架け橋期のカリキュラムの作成

(5) 円滑な接続を支える特別支援教育 (保育における特別支援教育の視点)

・・・特別支援教育課

3 施設内研修における人材育成 (保育者の資質・能力の向上に向けた人材育成の取組)

- ・ 保育者に求められる専門性
- ・ 協働型研修 (Cf. 「保育を語り合う協働型園内研修のすすめ」)

4 家庭・地域との連携

※ 家庭教育をサポートする役割としての幼児教育のあり方

【架け橋期のカリキュラム表】・・・巻末

【発達の特性】・・・巻末(参考資料として)

【島根県の施策】・・・QRコード掲載 (HPにて毎年度更新)

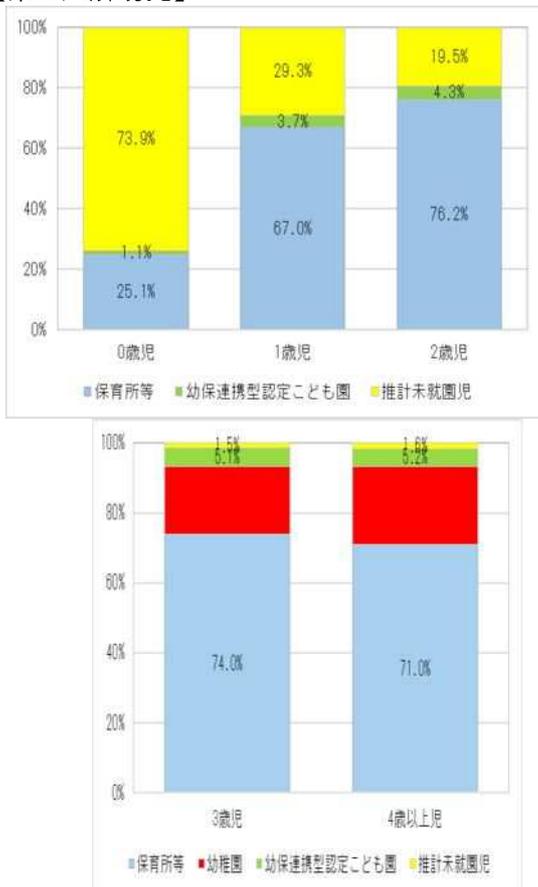
- ・ 島根県の幼小連携・接続に係る取組状況
- ・ 架け橋期の教育の充実に向けた実践例
- ・ 幼児教育の質の向上につながる研修例、実践例
- ・ 保育人材確保(育成)関連

参考資料（改訂版には掲載しない内容）

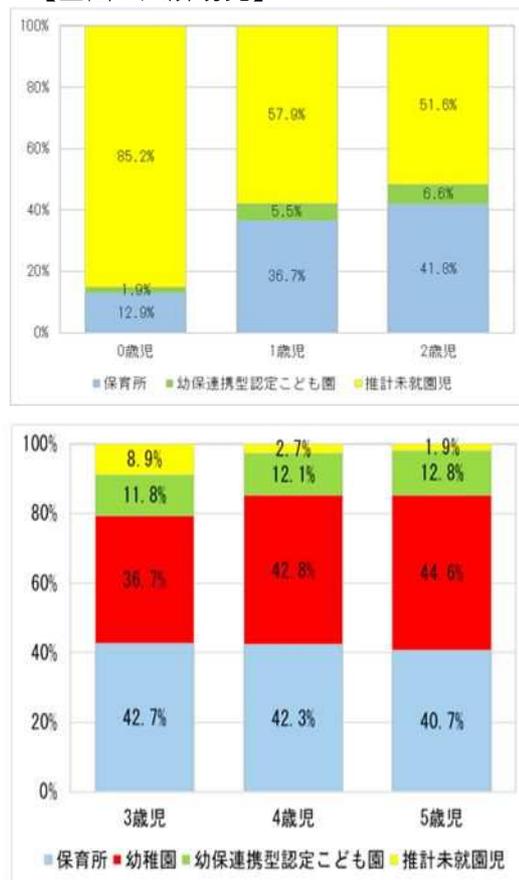
島根県の幼児教育に関わる特徴

- ※ 子どもにとっての幼児教育施設における生活時間の多さ  
幼児教育施設が担う幼児期の教育の役割の重要性

【県の入所幼児】



【全国の入所幼児】



## 令和6年度（幼児教育）振興プログラム改訂 スケジュール

年	月	推進協議会 等	議員関係	その他
令和6年	5月	<u>30日:第1回推進協議会(終了)</u> ○改訂に係る基本的な考え方 ・基本的な構成 ○県内幼小連携・接続推進状況 (令和5年度実態把握調査結果等)周知		
	6月			※ヒアリングメンバー検討
	7月	<u>17日: 第2回推進協議会</u> (前回の協議会を受けて) ○ 骨子案の検討 ・ 目指す子どもの姿 ・ 県が目指す架け橋プログラム		
	8月	【教育委員会会議】 ○ 改訂に向けた考え方 ○ スケジュール 等	【基本資料検討ヒアリング】 (第3回推進協議会までに)	
	9月			
	10月	<u>10日: 第3回推進協議会</u> ○ ヒアリングを受けて 骨子案検討 ○ パブリックコメントの実施について  常任委員会報告 ○ 改訂骨子案		
	11月	<u>15日: 第4回推進協議会</u> ○ 改訂版に掲載する基本資料について		
	12月	【パブリックコメント】(1か月)		
令和7年	1月	<u>17日: 第5回推進協議会</u> ○ パブリックコメント結果を受けて ○ 改訂骨子案審議、決定		
	2月	常任委員会報告 ・パブリックコメントを受けて		
	3月	【教育委員会会議にて報告】 改訂振興プログラム 策定		

資料3

振興プログラム改訂に係るヒアリングメンバー

	所属	お名前
松江	松江市立出雲郷幼保園	持田 美和 教諭
出雲	出雲市立今市幼稚園	小林 笑子 教頭
松江	坪内朋和学園育英北幼稚園	永谷 公亮 部長
大田	池田保育園	松本 世理子副園長
出雲	出雲乳児保育所	石飛 明美 主任
益田	津和野幼花園	常永 美海 園長